

高専

有明高専だより

第127号
2009.2



目 次

特集 立居場校長先生にインタビュー	2・3
シリーズ 卒業を控えて(5年生・留学生)	4・5
シリーズ 人物・いま	6・7
国際交流2008	8・9
シリーズ 研究室訪問	10
シリーズ 企業訪問—卒業生を訪ねて—	11
ロボコン・デザコン	12
プロコン・冬季球技大会	13
体育系部活動リーダー研修	13
新学生会・学生会役員研修	14
岱明寮だより	15
トピックス・編集後記	16

※本文中に於いて、学生氏名の前にある英数字等は、所属クラスを表します。

(数字:学年、M:機械工学科、E:電気工学科、I:電子情報工学科、C:物質工学科、A:建築学科、専:専攻科 但し、2年生は学年 - 組)

特集 立居場校長先生にインタビュー

昨年4月に着任された立居場光生校長先生に、本校を約1年間見てこられて、その印象やこれから構想などを、学生会長の柿原隆宏君(4M)、副会長の枝廣真樹子さん(4C)、寺地一拓君(3M)がインタビューしました。

柿原：まず、先生が有明高専に来られてから、この約1年間の有明高専の印象はどのようなものでしょうか。

校長：私は大学にいたとき、主に3・4年生や大学院生に講義や研究の指導をしていました。その人達は20才以上なので、有明高専に来た時は、学生がずいぶん若いなあ、変な言い方ですが、かわいいなあと感じたことが第一印象でした。それから、大学に比べて先生方が学生に向かって一所懸命教育に力を注がれていると感じています。高専に来る前、エンジニア教育の観点から高専と大学の工学部との違いを考えました。一般教養を学んだ後、専門教育が行われる大学では、自信が持てない学生がいますが、最初から専門科目を学ぶ高専では、若いときからエンジニアの核となる芯棒を作りながら教養も身につける教育が可能で、その方がエンジニア教育としては成功するのではないかと思いました。そして、実際、先生方は、それを実現するためにがんばっておられるという印象を持ちました。



枝廣さん

枝廣：これから先、どのようなことをされたいですか、構想をお聞かせください。

校長：抽象的ですが、有明高専をいろんな意味で強くしていきたいと思っています。まず、本科や専攻科を卒業して就職したり進学したりした本校出身者が、そこで活き活き

と力を発揮できるような教育がなされる学校にしていきたいと思います。とくに現在は技術が高度化していますから、これから先、もっと勉強したいと考える進学者が増えると思います。のために、本校から大学への編入や大学院への進学が確実に可能であるという実績を作りたいです。進学希望者にそれを実現させてあげられる教育や体制づくりを強化したいと思っています。また、少子化の影響で志願者が減っているので、何とかして、たくさんの方が志願するような学校にしたいと考えています。さらに、留年者を減らすことも考えています。これは、教育する先生方と学習する学生の両方がきちんとすれば減らせるのではないかと考えています。一度留年した人も潜在的な能力はあると思いますから、先生方のサポートのもと、一念奮起してがんばれば、ちゃんと卒業できると思います。これらさまざまなことがすぐに実現できるとは限りませんが、これらのこ

とは正しいことだと思っていますから、あきらめずに、一歩ずつでも少しずつでも実現できるように努力していきたいと思っています。

寺地：学生に望むことはありますか。

校長：卒業後進学する人もいますが、大多数の人が最終的にはエンジニアとして活躍すると思います。そのためにはスケジュールが非常に大切です。身近なものでも良いですから、まず何か目標を掲げ、それを達成するためのスケジュールを立てる、そしてそれに向かって努力する、このように段取りを立てて物事に取り組むことを行ってほしいと思います。最初はうまくいかなくても、何回か繰り返せば、自分の力量が分かってきますから、うまくできるようになると思います。目標としては、たとえば、卒業までの勉強とか、その学年の最後までの勉強とか、あるいは勉強ではなく他のことでもよく、また、スケジュールは目標に関することだけで密にするのではなく、遊びや自分の好きなことも入れて立てたほうがよいと思います。そして、そのようにして立てたスケジュールを楽しみながら、しかし、最後は目標を達成できるように努力するという習慣をつけてほしいと思います。何となく高専に来て何となく勉強している人は、特にこのような取り組みの習慣をつけてほしいと思います。また、私は子供のころチャンバラ映画をよく観ていましたが、そこで、禄をもらったならばそれにふさわしい仕事をするという武士の生き様や潔さに感化されました。現在、社会で働いている人も、自分自身が給料に見合うだけの仕事をこなしていないと感じたならば、もっと働くなければいけないという潔さを持っていると思います。学生の皆さんも、自分の感受性に依って、この潔さのような価値観を持っていると思います。それに照らし合わせて、努力が足りないと感じているならば努力をしてほしいと思います。



寺地君

寺地：校長先生は何か趣味をお持ちですか。

校長：昔からいっぱいあります。小学校のころは映画を観て、マンガもだいぶ読みました。スポーツも中学のころ野球や相撲、テニスもやりました。今、スポーツはできませんが見るのは好きです。ソフトパンクの試合によく行っていました。音楽では、大学のときにクラシックのLP盤を良く聴いていま

した。歴史も好きです。個々の細かいことではなく、全体の流れが好きでした。美術は見るのは面白いのですが、よくわかりませんでした。囲碁・将棋は、見ることはありますが、弱いです。とにかく、いろんなものに興味を持っています。

寺地：今、校長先生が一番関心を持っておられるのは何ですか。

校長：まず、第一番は有明高専のことです。それから、まだ研究も少し引きずっています。他大学の先生と共同研究も続けていますし、月に一度の割合で九大で大学院生と議論をしています。その他にもいろいろなことをやっています。経営者の人の視点や考え方を得るために、日経ビジネスという週刊誌も、毎週1時間足らずで読んでいます。しかし、一番は、やはり有明高専の校長の仕事です。

枝廣：今、校長先生の研究の話が出ましたが、どのような研究をされているのですか。

校長：電磁波を使って見えないものをいかに見るかというレーダーのことを研究しています。現在はきれいな波が使われていますが、汚い波を使った方がもっとよく見える可能性がありますよという研究です。みんなエッと言いますが、シミュレーションではあります。このような逆転の発想みたいなものが面白く、また楽しいのでやっています。

枝廣：私たちは、これから5年生になると、卒業研究でこれまでと全く違う新しいことをやることになるのですが、それをどのようにして乗り越えていけばよいか、アドバイスがあればお願いします。

校長：研究課題などは、先生方が適切なものを提示され、それは学生から見ると初めてでわからないことかもしれません。そこで、まず、その研究を達成するための基礎知識としてどのようなものが必要であるかを整理して、その基礎勉強をしましょう。しかし、いつまでもそればかりをするわけにはいきませんので、ある程度のところで実験等を始めて、分析等を進めてください。そして、基礎勉強にしても実験の分析にしても、わからないことが出てきたとき、先生と相談することになりますが、そのとき重要なことは、不明なことに対して「自分はこう思うのですが、先生どうでしょうか」という姿勢で相談することです。そうすれば必ず先生はアドバイスをしてくれると思います。入社後も最初の1年間は、そのような姿勢で聞きまくるということは必要だと思います。



柿原君

柿原：自分は学生会長として学生会を動かす立場にあるのですが、校長先生が先生方に指示を出されるときに心がけておられることはありますか。

校長：私は先生方を信頼しています。私が行おうとしていることが正しければ、先生方もそれについて行動をしていただけると思っています。いろいろ問題があると言われるときもありますが、このことはそれをしないと言われているのではなくて、行うという前提で考えていただいているのだと思います。そこで、基本

的には、私のやりたいことをきちんと伝えて、先生方に理解してもらうことが大切だと思っています。これがうまくいかないと、みんなで協力して何かを為すということはできないと思います。会社でもそうで、そういうことがうまくいくのは、命令系統だけではなくて、意思統一がきちんとしているからだと思います。柿原君が学生会で何かやりたいときも、他の皆さんがあそだと言つてもらえば、その時点でもうほぼうまくいくと思います。

寺地：今の質問と重複するかもしれません、校長先生が人をまとめたり動かしたりするときにおられる、変わらない信念みたいなものがありますか。

校長：私がこれまで行ってきた研究にしても教育にしても、先に言ったように、これが大切だと思うことは、皆さんに説明して、理解を共有してもらって行ってきました。そして今つくづく思うのは、今まで行ってきたさまざまなことにおいて、それらを一緒にやってきた周りの皆さんに、よく協力していただいたなという感謝です。ただし、さまざまのことを行うとき、時間や資源等限られた中で行わなければなりませんので、ものすごく無茶なことは行いません。つまり、限られた中でもある程度努力すればできると考えられる場合に、自分が大切だと思うことを伝えて、それを皆さんに共有してもらい、協力していただいたから、今までいろいろなことが達成できたのだと思っています。そして人間は本質的には潔いものだと思っていますから、大切なものを共有できると信じています。

枝廣：今、経済などが不景気で、これから先、就職等を考えたとき不安になるのですが、こういうことができれば企業でも役立つというようなことはありますか。

校長：まず、就職試験のときは、なぜ、自分がその会社で仕事をしようと思ったかをきちんと伝えることが大切です。ペテランの採用者は、口先だけなのか、強い志を持っているのかを見分けられるようです。そして、採用が少ないときに、会社が望む人材は、難しい課題に対しても逃げないで立ち向かう意志の強い人です。強い意志を持てるようになってください。また、バブルのときに就職した人は、会社も採用に甘かったようで、後で仕事に苦労していると聞いています。求人率は昨年より減るかもしれません、このような厳しい状況で就職した方が、後々はいいかもしれませんね。

柿原：最後に、学生会に望むことはありますか。

校長：学生会は非常によく仕事をしていると思います。感心しています。あと期待することは、学生会の活動が全学生に広がるといいと思います。それから、逆に皆さんのはうから私に望むことがあつたら遠慮なく言ってください。

柿原・枝廣・寺地：今日はお忙しい中、本当にありがとうございました。



立居場校長先生

シリーズ 卒業を控えて



卒業を前にした5年生の皆さんに、5年間の思い出やこれからの抱負などについて語っていただきました。



司会
坂西先生

出席者:M 川崎 賢一(寮長、ラグビー部部長／株式会社日産テクノに就職)
E 植尾 友紀(学生会文化局局長、副寮長／株式会社三松に就職)
I 佐伯 伸一(水泳部部長／宮崎大学に進学)
C 小田奈津姫(女子バレー部部長／昭和電工に就職)
A 内田 藍(女子バスケット部部長／ダイアン株式会社に就職)
司会:坂西文俊(一般教育科)

司会：本日は卒研の追い込みなどで忙しいところをお集まりいただき、ありがとうございます。この座談会では、卒業を控えた皆さんに、5年間の思い出や後輩へのメッセージなどを伺いたいと思います。まずははじめに、高専で務めた役職とこれからの進路について教えてください。

(上、記載の通り)

司会：それでは、高専の5年間で一番印象に残ったこと（大変だったこと、思い出になったこと）は何ですか。

川崎：僕は高専ではラグビーしかしていないので、記憶に残ったことも大変だったこともラグビーです。下級生の時は練習がきつかったし、上級生では部長として部をまとめるのに苦労しました。



I 佐伯君

佐伯：自分は進学しようと思い、5年のときにいくつかの大学を受験したのですが、全てパスできず、どうしても進学したかったので、もう1年間5年生をやったことが一番印象に残ったことです。

小田：4年生の前期のレポートです。実験とかが

集中していて週に2・3個レポートを書かなければいけなくて、あまり寝ていなかったことが大変でした。

内田：女子バスケット部の部長になって、チームを引っ張っていかなければならぬので、いろいろなことを考えはするのですが、それを行動に移すことがなかなかできなくて苦労しました。

小田：私も女子バレー部の部長としてがんばろうと思いながらもうまくできなくて大変でした。でも、後輩や友達がしっかりしてくれたので、最後までやることができました。

植尾：私は、学生会の仕事で4年生のときに卒業アルバムを作ったことが一番大変でした。誰にも

要領を聞くことができない状況で、一からアルバムを作らなければならなかつたことが大変なこととして印象に残っています。

司会：楽しかったことなどはないですか。

佐伯：楽しかったことは、忘れてしました。

(一同笑い)

司会：では次に、これからの抱負を聞かせてください。

川崎：この前、会社の内定式に出たのですが、周りは大卒の人ばかりでした。その人たちに負けないように、というよりは、その人たちに勝つように仕事をしていきたいです。

植尾：就職したら一人暮らしになるので、ちゃんと自立した生活をしていきたいです。

佐伯：大学で友達をいっぱい作りたいです。

小田：就職先での仕事の内容が今卒研でやっている生物系とは全く違い、



E 植尾さん

一から勉強しなければならないので、それをがんばりたいです。人生の目標は、幸せな家庭を築きたいです。（一同笑い）

内田：仕事も含めて、常に勉強をがんばっていきたいです。そして、ちゃんと大人になりたいです。

司会：小田さんと内田さん以外の人、人生の目標みたいなものがあれば。



A 内田さん

川崎：大卒に勝つ！

植尾：常に学ぶ姿勢を忘れないでがんばっていきたいです。

佐伯：高専とか大学でできた友達を一生の友達にしたいです。

司会：5年間の高専生活を過ごした経験をもとに、後輩へのメッセージをお願いします。

川崎：何か1つことを集中してやってほしいです。僕の場合は部活でしたが、スポーツや勉強に限らず、自分の好きなことを1つ集中して真剣に一所懸命やれば、それが思い出になると思います。

植尾：レポートなどは、やれるときに片付けておいた方がいいですよ。

佐伯：進路は4年生の最初の時から考えておかないと大変なことになると思います。

小田：部活とか体育祭とか高専祭とかで先輩や後輩との繋がりができますが、この繋がりは大切にしてください。OB戦とかで先輩と会うことは楽しいし、このような繋がりは何十年経っても大切なものとして残ると思います。

内田：就職して社会に出たらできなくなること、学生のうちにしかできないことをやっておいてほしいです。

司会：では、次に学校に対する要望やコメントなどがあれば述べてください。

川崎：寮のことなのですが、上級生と下級生で区別をしてほしいです。規則だけでなく全体的に、その区別化を考えてほしいです。3年生まではきちんととした指導が必要だと思いますが、たとえば5年生の卒研で遅くなる時も11時までには絶対帰らなければならぬのはちょっと苦しいです。

佐伯：僕も寮のことですが、冬の朝点呼は建物内でとるようにしてほしいです。寒いです！

川崎：それから、学校のグラウンドのライトを全面が明るくなるようにしてほしいです。

小田：第2体育館の壁から釘が出てくるので点検



M 川崎君

と修理をお願いします。

佐伯：教務関係ですが、大学のように、留年した時、前年度に単位修得をした科目は履修しなくても良いことにできないでしょうか。夏休みの期間は大学のように（夏休み前に前期の授業を終了に）しなくとも良いと思いますが、単位制の方は実現できればと思います。

内田：朝のバスの本数が増えればいいなと思います。乗車マナーも改善しなければならないと思いますが、本数も増やせればと思います。

川崎：寮の夕食の時間をもう少し遅くまでできないうちにどうでしょうか。

司会：では最後に、後輩へのアドバイスとして、この5年間でこれをやっておけば良かったというような心残りなことがあれば、教えてください。

小田：4・5年になると、実験やレポートや卒研とかで忙しくなり、自分自身のためになる時間が少なくなります。時間的余裕がある下級生の時に、資格とかの勉強をして取得しておくとあとで役立つと思います。下級生のうちは時間的な余裕に気づかないかもしれません、勉強だけでなく、自分自身のためのいろんなことをやっておいた方がよいと思います。

植尾：陸上部でしたが、冬に練習に行かなかつたことがあって、今振り返るとちゃんと部活に行っておけば良かったなと思っています。

佐伯：心残りはいっぱいありますが、ここで言るのは恥ずかしいです。（一同笑い）

内田：もうちょっとちゃんと勉強しておけば良かったと思います。

司会：それでは、今日は、いろいろな話を聞かせていただきまして、本当にありがとうございました。

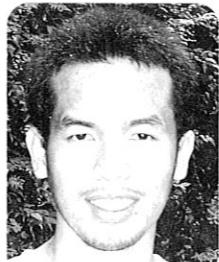


C 小田さん

留学生ー卒業を控えてー

卒業を迎える留学生の5E・レオ君に、本校での3年間の思い出や、今後の抱負などを語ってもらいました。なお、レオ君は佐賀大学へ進学する予定です。

－3年間ありがとうございました！－



レオ・アグン・アンディ・バスカラ
(5E)

3年前、東京の日本語学校を卒業した後、僕は有明高専に編入学しました。日本語はもう十分に身につけたと思っていましたが、やはり大牟田の方言が全く分からなかつたので最初はとても大変でした。しかし、チューターの渡邊君のおかげで、何とかみんなについていけました。

4年生になったら、チューターは青木君に代わりました。青木君にはいろいろな日本の文化を教えてもらいました。日本のお祭りや武道は非常に興味深いことでした。

あつという間に卒業を迎える日がやってきました。この3年間はとてもいい経験だと思います。有明高専のことは決して忘れられません。また皆さんに会うのを楽しみにしています。ありがとうございました！

シリーズ 人物・いま

退職教職員 平成21年3月をもって退職される教職員8名の方に、次の3つの質問に答えていただきました。

Q1 高専で最も思い出に残ることは? Q2 高専あるいは学生に望まれることは? Q3 今後のことについて一言



電子情報工学科
活田 健治教授

A1 7年前に企業の研究所からこちらにきました。純真で方言と個性が豊かな学生諸君がいました。大牟田は初めてでしたが、懐かしく温かいものを感じたことが記憶に残っています。それ以降、年々歳々顔同じからざる学生達との出会いがメモリーから呼び出されてきます。

A2 何事にも決して諦めることなく、徹底的に考え抜いて行動するパターンを身につけることです。今がそのときです。恵まれた環境に甘んじないことです。そして、人生を楽しく豊かに過ごすために今何をすべきかに狙いを定めて挑戦し続けることを期待しています。

A3 停年となりますますが、引き続き少しの間勤務させていただけることになりました。よろしくお願いします。



電子情報工学科
八坂 三夫教授

A1 民間企業から本校に転職して4年の歳月が経ちました。その間、4、5年生の担任をさせてもらい、情熱を注ぐ体育祭、そして、関東地区への研修旅行の準備・引率や学外実習の世話、進路面談等に追われたことを思い出します。

A2 高専で得た内容は、専門分野においても、人格面においても一生の骨格をなす部分になると思います。さまざまなことに積極的、果敢に挑戦して、実践的な人材として逞しく育ってほしいです。

A3 これまでとあまり変わらないですが、通勤時間がかなり短縮されます。高専での経験をもとに異なる教育の場で、がんばりたいと思っています。



建築学科
中島 美登子講師

A1 5年建築学科の学生さんの成長を3年間かけて見てきたことです。専門教育を深め、建築の中でも自分はどの分野をどのような理由で学びたいのか、あるいはどのようなことを自身の仕事として選び、社会に貢献していくのかを考えた後の5年生との日々は穏やかで楽しいものでした。残りわずかな時間となりましたが、誰もが共に学んできた仲間との時間を大切にしていることを感じています。3年間を共に歩んだからこそ味わえる喜びの時だと思っています。

A2 専門を追求できるこの環境を、向上心を持って活かしてほしいと思います。

A3 今後も障害者や高齢者の居住環境を考え、現場に関わっていきたいと思います。



一般教育科
岩本 晃代教授

A1 着任してすぐ参加した新入生オリエンテーションです。当時は女子学生も少なく、また、女性教員は私一人でしたので、少しとまどいつつも、充実した研修を体験することができました。美しい阿蘇の風景と楽しい時間が今でも鮮やかによみがえってきます。

A2 高専のみならず各種の学校をとりまく環境は年々厳しくなってきてています。けれども高専には、他種の学校はない「一貫教育」という武器があります。ものづくりの技術が、そのユニークな制度によってさらに磨かれることを祈念しています。

A3 近代文学と国語教育を専門に教鞭をとることになります。高専で経験させていただいたこと、教職員の皆様から教えていただいたことを、新しい環境の中で活かしていくよう努力したいと思います。



教育研究技術
支援センター
木下 三朗技術長

A1 実に数多くの思い出があります。中でも決して忘れたことがないのが、昭和49年の登山部の剣岳遭難です。当時の私は登山部のコーチとして、部の山行には必ず同行していました。遭難が起きたのは夏期遠征中のことで、誤報も流れて学校は大変な騒ぎになりました。一時はその責任を痛感し、辞職することも考えましたが、この遭難を契機に部員との絆が一段と深まり、今は懐かしい思い出としてインプットされています。

A2 高専の5年間は青春真只中で、最も多感な時期もあります。なにをしても構いませんが、社会のルールを守り、目的を持って高専生活をエンジョイしてください。

A3 2001年から週1回の割合で、大分県の九重山に登り、HPでその最新情報を発信しています。退職後もこれだけは続けたいですね。その後、山に行ける体力がなくなれば、妻と二人で退職金が続く限り、世界百景でも巡ります。



教育研究技術
支援センター
多田隈 秀憲副技術長

A1 高専に勤務を始めてから、今まで過ごしてきた日々がとても懐かしく浮かんできます。学校行事に関する準備や後片付け、実験実習を始め、卒研用器具、高専祭、ロボコン、ソーラーボート、エコラン等に関する製作を学生と共にを行い、大会へも行ったりしたことなど、例を挙げれば限りがありません。

A2 学生のうちは、勉強が一番大切であることは間違いないと思います。しかし最近は、大半の学生があまり勉強をしていないように見受けられますが私の偏見でしょうか。時には息抜きも必要でしょうが、勉強にもう少し専念してほしいと思います。

A3 定年後も継続して勤務いたしますが、短時間勤務ですので今までより少し時間ができます。映画鑑賞、ドライブに加え、新たに読書を趣味に、と思っています。それに適度のウォーキングを取り入れて健康的に生活できるように努力したいと思っています。



学生課
佐藤 律子 療務係長

- A1** 入学式・卒業式、炎天下の高専大会、上るたび息切れがする高専坂等、色々なことがありました。今はすべて懐かしい思い出です。強いて挙げればと、記憶を辿りましたが、どのできごとも同じように思い出深いものでした。
- A2** 学校は知識の宝庫と言っていいかも知れません。疑問があればいつでも質問したり、自分で調べたりすることができる環境が整っています。これを利用しない手はありません。大いに活用して、知識を吸収し、自分の可能性を追求してみては如何でしょうか。
- A3** 曜日と無関係に日曜日ばかりという感じに馴染むまでに少し時間が掛かるかも知れません。脳の活性化のためには外に出た方がいいかなと思っています。まず、手始めに私が退職するのを心待ちにしてくれていた先輩達と旅行する予定です。



学生課
古川 由紀子さん

- A1** 毎年緊張した面持ちで入寮してくる新寮生。親元を離れた新しい生活がスタートするにあたり、彼らの不安げな顔やその光景が浮かんできます。不安一杯の寮生の気持ちをどうほぐしてやれるかが、寮母として私達の課題で、1年の仕事の始まりでもありました。寮の環境の中で日々成長する学生を見るのが、とても楽しみでした。
- A2** 寮の中は小さな社会ですので、寮生活を送った学生達は経験豊かですが、さらに社会のルールを学習して、自分を高めていってほしいと願います。
- A3** 旅行も楽しみにしていますが、地域のボランティア等にも参加し、野菜作りも楽しみたいと思っています。

人事交流教員あいさつ 今年度、人事交流教員として赴任された前田先生に、1年間の感想をうかがいました。



物質工学科
前田 良輔 准教授
(北九州高専～有明高専)

私にとってこの度の1年間の人事交流は、今後の教員生活において大きな糧となることは間違いません。同じ福岡県の有明高専と北九州高専、両高専間で同じ部分は漠然としたのですが、相違点は明確に見えてきました。その相違点を私なりに考え、今後北九州で反映させてみたいと思います。さて、1年間を振り返ってみると楽しい思い出ばかりでした。巡回中にも関わらず学外者のように楽しんだ高専祭、意外と熱くなったりレク行事、学科の先生方とのマニアックな懇親会等いくつもありました。そして最も嬉しかったことは、授業にある学生に北九州に戻らないで欲しいと言われたことで、逆に座学の授業がその科目だけであったためほとんどの学生と接する機会がなかったことが心残りです。末筆ながら温かく接して下さった物質工学科の先生方や事務員さんをはじめ、有明高専の教職員の皆様には心より御礼申し上げます。大変お世話になりました。

永年勤続表彰

永年勤続20年の教員3名の方に思い出などを聞きしました。



機械工学科
明石 剛二 准教授

- 20年間での一番の思い出 実習工場の改修です。工場のレイアウトの検討に始まり、機械類の移動手順や改修期間中の授業の処置など多岐にわたる問題を教職員の皆さんと協力し、1つ1つ克服していくことを今でも鮮明に覚えています。
- 20年前と今について 私が勤め始めた時は、まだ「昭和」の時代でした。その後、「平成」の時代となり、人の考え方も世の中のシステムも大きく変わってきていますが、一方でエンジニアとしての「心構え」は今も昔も変わっていないとも思います。
- これからの生き方は 私には「夢」があります。「夢」を実現できるように日々の努力を積み重ねていきたいと思います。
- 学生に一言 「けじめ」のつけられる人になってほしいと思います。また、有明高専の学生として、もっと誇りを持ってほしいとも思います。



建築学科
松岡 高弘 教授

- 20年間での思い出 本校着任前の3年間、滋賀県教育委員会で文化財建造物の保存修理の設計監理等を行っていたので、本校では平成3年4月からの17年間になります。この期間の学校行事の思い出は枚挙にいとまがありません。それ以外のことでは、平成3年9月の台風17号と19号、平成17年12月の大雪が太宰府からの通勤で苦労したこととして記憶から離れません。
- これからの生き方は この20年間、さまざまな分野で目まぐるしい変化がありました。今後も色々な変化に順応して誤りない方向に進むことができることを願っています。
- 学生に一言 いつまでもある（在る・有る）と思わないで、その時、その時を大切にしてほしい、と思います。



一般教育科
岩本 晃代 教授

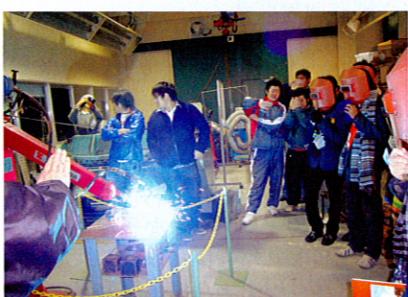
- 20年間での一番の思い出 新任教員として始業式で挨拶した時のことです。有明高専にとっては初めての女性教員だったからでしょうか、とても珍しがられたのが印象的でした。
- 20年で自分が変わったところ 修士課程を修了してすぐの着任ということもあって、人間としても教員としても大変未熟でした。20年を経て、なんとか一人前に近づけたような気がします。周囲の教職員の方々のご支援、そして学生の皆さんのおかげだと思っています。今なお成長の途上です。
- 現在の研究 以前から研究していた近代文学のほか、近年、学校制度（とくに高専の制度）の分野にも研究対象を広げています。
- 学生に一言 常に感謝の気持ちを忘れずに。自分らしさと協調の精神を大切にしてください。

国際交流2008 世界中に友達を持つ!

国際交流委員会

シンガポールポリテクニックの学生来校 12/7(日)-12/14(日)

12月7日(日)から14日(日)にかけて、協定を結んでいるシンガポールポリテクニック(シンガポールにおける高専と同等の教育機関)から学生12人と教員1人が来校されました。シンガポールポリテクニックは78学科およそ15,000人の大きな学校です。訪問期間中には、キャンパスツアーや日本語および英語の授業・創造設計合同演習への参加、華道・茶道・弓道・剣道体験、球技大会参加、トヨタ自動車九州工場見学、そば打ち体験、熊本城見学、阿蘇山観光などを行いました。また、期間中は寮に宿泊し、チューターを含めた寮生との交流も行いました。特に、阿蘇ファームランドでの温泉体験(シンガポールには温泉がないらしい...)では、ある意味、裸のお付き合いで楽しい時間を過ごしました。今回、お互いの学生同士が国境を越えた、そして心の通った交流ができたのではないかでしょうか。送別会や最後のお別れの際の涙がとても印象的でした。



溶接ロボット(M科)



二足歩行ロボット(E科)



学生実験(I科)



実験室(C科)



建築棟(A科)



創造設計合同演習への参加



そば打ち体験(筑後手作り村)



茶道体験



華道体験



クリスマスディナー(寮)



クリスマスパーティー(寮)



シンガポールチーム(球技大会)



ショッピング(ゆめタウン大牟田)



トヨタ自動車九州工場見学



社会学への参加(2-5)



英語コミュニケーション(3A)



火山温泉(阿蘇ファームランド)



草千里(阿蘇山)



送別会①(修己館)



送別会②(修己館)



最後のお別れ(寮)

中国 遼寧石油化工大学から屈先生が来校 11/25(火) - 12/9(火)



有明高専正門にて記念撮影

中国の遼寧石油化工大学 Information & Control Engineering学部の部長である屈宝存先生が、11月25日(火)～12月9日(火)に、姉妹校教員交流として有明高専にお越しになりました。有明高専に滞在中、電気工学科の学生を対象にご自分の研究や中国の教育制度などについてご講演なさったり、電気工学科の授業や学生の発表などをお聞きになりました。そして、トヨタの工場、石炭産業科学館、福岡タワー、玉名市奥の院などの見学、さらに、小浜温泉も体験なさいました。

帰国後、「大変有意義な15日間で、一生忘れられません。日本と有明高専に新しい認識ができました」との感謝のメールをいただきました。これからも両校の教員交流が盛んに行われれば、と思います。

本校専攻科生 遼寧石油化工大学を訪問 9/7(日) - 9/13(土)

一般教育科の山口教員と物質工学科の劉教員が、専攻科生を率いて、中国へ研修旅行に行きました。訪問した場所は、大連、瀋陽、撫順の3都市です。大連で日露戦争の戦場である203高地や、星海公園などを見学した後、列車で瀋陽へ向かい、清朝初代の皇宮や、故宮博物館など3つの世界遺産を見学しました。

そして、撫順市にある姉妹校遼寧石油化工大学を訪問しました。歓迎式後、先生や学生達の案内のとも、学内を見学しました。また、私達のために晩餐会を開いてくださいり、有明高専を訪問したことがある陳副校長はじめ、郭先生、魏先生などが出席されました。有意義な交流になり、今後もこのような交流を継続していきたいです。



遼寧石油化工大学にて記念写真

シリーズ

研究室訪問

今回は、機械工学科の岩本達也先生と電気工学科の森山賀文先生の研究室を訪ねて、お話を伺いました。

(聞き手:E科 池之上正人)

岩本 達也 研究室(機械工学科)

先生の専門分野についてお聞かせください。

材料力学(鉄鋼・アルミなど、機械材料の強度や変形などを計算により求める学問)が専門です。材料に作用する力(応力)を見積もり、安全かつ経済的な設計を行うために必要不可欠な学問であり、機械工学科でも3、4年次で開講されています。

現在の研究テーマをお聞かせください。

主に「コンクリート構造物に対する振動計測に基づく非破壊検査に関する研究」を行っています。機械科なのになぜコンクリートなの?と思うかもしれません、対象がコンクリート構造物というだけで、研究に使用する実験装置や計測方法などは機械工学の要素がたくさん入っています。具体的には、コンクリートなどの表面を叩いて振動させ(加振し)、その表面振動を加速度センサなどで測定するという方法を用いて欠陥を検出します。もし内部に欠陥があった場合、健全な場合の表面振動とは異なるので欠陥を検出することができるというわけです。この方法は、弾性体であればどんな材料でも適用できます。現在は、この方法の検出精度の向上に関する研究を行っています。たとえば、検出精度を高めるような加振方法や測定方法を提案し、それを実験や数値シミュレーションを用いて検証しています。

この他に、超音波反射法を利用した表面形状の測定に関する研究や、荒尾市商店街との共同研究で実際にワインづくりをされている方達の意見を取り入れた「ワインタンクの製作」なども行っています。

今後の研究の方向をお聞かせください。

土木の分野における非破壊検査の研究は、まだまだ未開拓の部分がたくさんあります。今後は現在行っている研究を続けていき、さらなる精度向上や新しい検査手法の提案をしていきたいと思っています。また、この方法はコンクリート以外にも適用可能ですので、さまざまな材料に適用して色々な欠陥を検出できるようにしたいと思っています。

最後に学生へのアドバイスをお願いします。

安易に、成果や正解を求めるのではなく、たとえ他の人の倍の時間がかかったとしても、自分の力で何事にも取り組んでほしいと思います。それから、学生のうちにいろいろなことに挑戦し、たくさん失敗を経験してください。失敗ができるということは、学生の特権だと思います。社会人になった時、その経験は何らかの形で必ず役に立ちますので、いろいろなことにチャレンジしてみましょう!



研究室の学生達と

森山 賀文 研究室(電気工学科)

先生の専門分野についてお聞かせください。

情報工学、特にソフトウェアのアルゴリズムに関する分野が専門分野です。

現在の研究テーマをお聞かせください。

「進化論的計算手法」に関する研究を行っています。生物の進化に倣った「遺伝的アルゴリズム(Genetic Algorithm: GA)」や生体の免疫システムに倣った「免疫アルゴリズム(Immune Algorithm: IA)」を画像認識などの最適化問題へ適用し、より効率的な解探索手法の開発を目的として研究を行っています。また、アントコロニー最適化(蟻の餌を捕りに行く様子を模倣して最適解を得る手法)や粒子群最適化(鳥や魚の群れの行動を模倣した最適化手法)などに代表される「群知能」の研究にも取り組んでいます。

研究で心がけていらっしゃることなどをお聞かせください。

プログラムや実験結果データには、あとで見直す際、解り易いように、コメントを入れるなどの工夫をしています。皆さんも、先生が板書した内容をそのままノートに写すだけでなく、話された内容もメモしておくと、復習する際に役立つと思います。余談ですが、研究時はパソコンに向かっての作業が主ですので、運動などを行い心と体をリフレッシュさせることも心がけています。

今後の研究の方向をお聞かせください。

「最適解の効率的探索」、「計算負荷軽減」のための「分散化」について研究を進めていく予定です。また、GA、IAなどを使って何か役に立つ研究や、自分がのめりこめる面白い研究も別分野も含めて模索していきたいと考えています。さらに、自分は電気工学科に所属しておりますので電気関係分野への応用を考えていきたいとも考えています。

最後に学生へのアドバイスをお願いします。

やれることをやれる時にやって、何事も先延ばしにしないでください。今は役に立たないと思っていても、後々必要になる時が必ず来ます。あの時やつておけばよかったと思う時が必ず来ます。新しいことに取り組むことは難しいとは思いますが、やってみると意外とできるものです。食わず嫌いをせずに新しい分野に挑戦すると新しいことも見えてきます。「やってみると意外とできます!やるなら早めがいいですよ!」



研究室の学生達と

シリーズ 企業訪問 -卒業生を訪ねて-



ヤンマー建機株式会社

(筑後市大字熊野1717番地の1)

シリーズ8回目となる今回は、筑後市にあるヤンマー建機株式会社にお勤めの本校卒業生にお話を伺いました。お話を伺ったのは、稗田敏さん(M科19期)、福田裕也さん(M科34期)、宮崎義章さん(M科35期)です。

(取材:M科 岩本達也)

岩本：最初に、貴社で携わってこられた仕事内容を教えてください。

福田：入社当初から原価企画を行っています。原価企画とは、新商品などの工程や材料費などを計算し、商品として成立する形にする仕事です。また、商品のコストを市場の相場に合せるために、さまざまな活動(コスト削減など)を行っています。

宮崎：治工具の設計と新規設備の導入を行っています。治工具とは、作業効率を良くするための工具のことで、開発図面を見ながら、溶接から切削までの全ての加工工程に必要な治工具全般を設計しています。

稗田：入社20年以上になりましたが、最初の10数年は熱処理に携わっていました。その後、トランクミッション内蔵品の加工や組立を4~5年ほど担当し、現在は労働組合で社員の福利厚生に関する仕事を行っています。

岩本：では、高専で学んだことの中で、現在役に立っていることはなんですか。

宮崎：仕事の内容が設計ですので、図面が読めない場合には何も始まりません。それから材料力学も良く使っています。

福田：原価企画という仕事は、製造の工程を理解していないとできません。ですので、実習や機械加工の授業が役に立っています。また、業務上、上司に報告や提案をする機会が多く、報告書の書き方やプレゼンの仕方などは卒業研究が役に立っていますね。

稗田：専門科目全般ですね。最初の職場の熱処理では、ミッション内蔵品の軸・歯車や足回り部品の焼入れなどを担当していたのですが、材料学を学んだことがそのまま役に立ちました。

岩本：仕事を通じて得られた喜びや仕事に対する誇りを教えてください。

宮崎：資格を取れることです。現在は、ロボットのオペレーターや溶接施工管理の資格などを取得しました。

福田：原価活動で目標を達成できたときは、何とも言えない達成感があります。お客様は安くて性



左から、宮崎、稗田、福田の各氏

能の良いものを求められますが、実際のところ安いものは性能が低くなります。この仕事は、相反する二つのことを実現しなければならず、とても難しいのですがやりがいもあります。

稗田：国内外での災害復旧現場の報道や工事現場などで、自社の製品を目にするときですね。きちんと社会貢献ができているのだなと、実感できます。

岩本：稗田さんと福田さんは編入生だそうですが、編入で苦労したことはありませんでしたか。

福田：やはり、勉強ですね。専門分野に関しては、工業高校との差はそれほどなかったのですが、数学などの一般教養科目ではとても苦労しました。

稗田：私もそうでした。私のときは機械科に3人の編入生がいましたので、編入生で集まってよく勉強していました。

福田：クラスの雰囲気は、工業高校とあまり変わらなかったので、すぐに馴染めました。

岩本：最後に、学生時代にやっておくべきことなど、先輩から学生にメッセージをお願いします。

宮崎：他者とのコミュニケーションがとれるようになってください。社会に出てからは、人間関係が大切ですので、学生のうちからいろいろな社会勉強をやっておくことも良いと思います。

福田：友達や先輩・後輩など、人との繋がりを大切にしてください。また、きちんとした挨拶ができるようになることも大切です。

稗田：社会人になると、仕事や家庭のこともあり学生時代に比べると自分の時間が少なくなります。時間を有効に使って、いろんなことにチャレンジしてください！

岩本：本日はお忙しい中、ありがとうございました。

ロボットコンテスト九州沖縄地区大会

最後のロボコンに参加して

5M 三原 徳馬

昨年10月21日に別府市でNHKロボコン九州沖縄地区大会が行われました。私は一昨年のロボコンに「炭坑武士」の設計者一人として参加し、非常によい経験をさせていただきました。今年度ロボコン部の部長を務めることになり、一昨年の経験を生かして、今年度こそは全国大会へとがんばってきたのですが、結果は初戦敗退という残念な結果に終わりました。しかし、Aチームは足の機構が高く評価され、「マブチモーター特別賞」をいただきました。頼りない部長でしたが、みんながんばってくれて本当に感謝しています。今年度の活動で得た経験は、私はもちろんのこと、特に後輩達にとって非常にプラスになったと思います。応援していただいた皆様には本当に感謝しています。ありがとうございました。

今年度のロボコンを振り返って

5M 恩田 卓堯

今年度のロボコンのテーマは「生命大進化」というものでした。私達は力士をモデルにした二足歩行ロボットと土俵をモデルにした多足ロボットを製作し、今年度のロボコンに出場しました。

マシーンは、江戸時代に柳川市に実在した大横綱「雲龍」をアピールしようということで、「雲龍有明丸」と名付けました。デザインも土俵の屋根を付けたり、力士のオブジェを作ったりしました。結果は、実力を十分に発揮することができずに1回戦で敗退してしまいましたが、多くの事を学ぶことができ、とても貴重な体験をすることができました。応援してくださった多くの方々には、心から感謝しています。これからも有明高専ロボコン部への応援をよろしくお願いします。



Aチーム「カルタン」



Aチーム「雲龍有明丸」



大会を終えて



大会に参加した学生たち

デザインコンペティション

5A 猿渡 大祐

今回のデザコン全国大会構造部門は、ペーパープリッジの耐力を競うもので、静的部門と傾斜部門がありました。その2種目の総合点で順位が決定されるというもので、傾斜部門では全体で第2位の耐力を記録しました。しかし、静的部門の方は1位の耐力の約3分の1しか耐力を発揮することができませんでした。それでも、最終順位を見てみると全国30チーム中4位でした。

入賞することはできなかったものの、全国のベスト4に名を残せたのは誇れることだと思います。良い成績を残せたことは嬉しいのですが、反面、試行錯誤を繰り返す時間が少なかったので、自分

たちの納得いくまでやっていれば、という悔しさもありました。次にデザコンに挑戦する学生には、この悔しさを受け継いでもらい、今回以上の成績を残してほしいと思います。大変貴重な体験をすることができました。

プログラミングコンテスト

41 高田 憲一

今回、私たちはプロコンの競技部門へ初めて参加しました。しかし当日は、システムエラーのために対戦できず延期となりました。競技部門はネットで行われ、1回戦で4位という結果でした。3位までしか準決勝に進出できないため、そこで終わりとなりました。

成績自体は残念でしたが、大会に参加することはとても楽しく貴重な体験となり、自分自身の成長にもつながったと思います。プロコンやロボコ



コンテストの様子

ンなどのイベントに参加することは、自分の実力を確かめるためにも、スキルアップのためにもあると思いました。これを読んでいる学生の皆さんも、学外のイベントに参加してみてはどうでしょうか？

冬季球技大会

体育局長 4A 長嶋 龍太朗

昨年12月10日(水)に、冬季球技大会が行われました。当日の朝に霧が出て、登校するときは雨天時競技になるのではないかと思っていましたが、無事に晴天時の競技ができる良かったです。競技が始まると、5年生を中心に熱い試合が繰り広げられました。また、シンガポールの学生も参加して、いつも以上に盛り上がったと思います。本当にあ



体育系部活動リーダー研修

1月20日(火)放課後、16の体育系部活動の新しいキャブテンおよび顧問教員約50名が参加して、体育系部活動リーダー研修を行いました。

今年度の全体会は、例年の講演会に代えて、大牟田消防署のご協力により、第1体育館において救急救命処置の講習会を行いました。参加者は、4つのグループに分かれ、約1時間にわたり、消防署員の

方の指導のもと、ほぼ全員が心肺蘇生法やAEDの操作の実体験を行いました。

次に、教室に移動して、団体競技・個人種目・団体個人両種目の3つのグループに分かれ、分科会として「リーダーの仕事と役割」というテーマで討論を行いました。

その後、全員多目的室に集合し、分科会で出された様々な意見や内容の報告を行いました。

リーダー諸君が各部活動の部員を牽引し、ますます活動を活発化してくれることを期待します。

(学生主事 中島洋典)



救急救命講習



分科会



全体会での報告

新学生会

学生会会长 4M 柿原 隆宏



今回、新学生会の会長に就任しました4M柿原隆宏です。慣例では4年生が就任する会長職に、昨年、3年生で就任させていただき、感謝と共に多くの不安を抱きながら1年が始まりました。これまでの1年間を振り返ると、今までにはない、とても多くの経験をさせていただきました。人をまとめるこの難しさ、学生会の代表であるということの責任の重さ、一つひとつの活動の企画運営の大変さなど、どれをとっても自分にとってとても良い経験となりました。特に、昨年度から始めたペットボトルキャップの回収活動には多くの方々にご協力いただき、12月9日時点では31,100個が集まっています。ペットボトルキャップ800個が1名分のワクチンに相当するので、約38名分もの数が集まることになります。この成果により、皆さん一人ひとりの協力が必要不可欠であることを再認識しました。朝の挨拶運動では、始めの頃はなかなか挨拶を返してもらえませんでしたが、今では誰もが挨拶を返してくれて、とても嬉しく思います。この運動から、コミュニケーションを取ることの大切さを学びました。また、正門での一時停止にも協力してもらい、本当に感謝しています。

これから、新学生会役員での活動が始まります。ほとんどの局において、昨年度の局長に続投してもらいました。私は、会長に就任するまで体育局長をしておりましたが、1年間では一つひとつの行事をこなしていくのが精一杯で、局員に仕事を教える（人を育てる）ことまでは、とても手が回りませんでした。その経験をふまえ、1年間で培ってきたノウハウを局員に伝授してもらいたいと思い、今回のような人事を行いました。また、局長には、「人を育てる」ことに重点をおいて活動してもらうとともに、2年目の活動ということでマンネリ化しないように、充実した学生会活動を行ってほしいと思っています。

10月中旬には、2年に一度の体育祭も控えています。一つひとつの行事や学生会活動を成功させるためには、皆さん一人ひとりのご理解とご協力が欠かせません。皆さんの意見をより多く取り入れ、学校生活や行事、学生会活動がより活発なものとなるよう、これから1年間、学生会役員計48名で努力していきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

平成21年度 学生会新役員

会長▶ 4M	柿原 隆宏	3M	寺地 一拓
副会長▶ 4C	枝廣真樹子	2M(5)	秀山 文彦
体育局▶ 4A	長嶋龍太朗	1M	大仁田恵悟
	2M(3)福岡 翔太	1M	中川 陽平
	3 I	2 C(1)	甲斐田有花
	1 A	角田 雅季	
文化局▶ 4E	三好 彩香	3 I	大津 昌子
	2 I(4)井上 優良	2 I(1)	吉丸 哲史
	3 C	2 M(4)	安藤 涼
	2 A(1)里中 拓矢	1 E	平島 凌
風紀局▶ 4A	小吹 義弘	2 C(2)	吉田 晴香
	3 A	3 M	大熊 政寛
	3 M	兼竹 望	
会計局▶ 4A	江頭 伸一	3 E	山川 考輝
	2 A(5)山崎 春菜	1 C	山田 香織
涉外局▶ 4E	今村 泰隆	4 I	古場 友規
	2 E(3)乙丸 裕輝	3 E	石丸 貴博
	1 I	樋口 友崇	
報道局▶ 3 A	弟子丸 愛	2 A(3)	眞弓 遥
	2 E(1)齋藤 武徳	3 I	松田 倫明
	2 E(3)宮園 龍弥	1 E	三宅 健吾
整美局▶ 4 I	石原 慶則	2 I(5)	吉富雄一郎
	2 A(3)彌富 泰祐	3 M	貝原 心大
	3 E	久保 貴博	3 I
	2 E(1)柴田 宏樹	福田 知宏	



学生会役員研修

12月13日(土)、新旧の学生会役員40名と学生主事室4名により、学生会役員の研修を行いました。

各人の自己紹介の後、まず、定例会の開催など新学生会としての新しい取組の検討や現在行っている挨拶運動の継続を確認し、高専祭時の募資金やペットボトルキャップの回収状況についての報告が行われました。次に、中島学生主事から、学生会役員の心構えについて話があり、来年度の学生会行事の日程を決定し、体育祭実行委員長の選出について議論がなされました。続いて、新役員および主事室それぞれから抱負が述べられました。その後、学生会役員として認識しておいてほしいこととして、現在学生主事室が苦慮しているいくつかの事例が提示され、その解決についての議論がなされました。最後に、近日中の予定を確認して研修を終えました。



本校の学生会は、他高専の学生会に比べ、非常にアクティブな活動を行ってきました。新学生会がそれを引き継ぎ、有明高専がより発展するような活動を展開してくれることを期待します。

(学生主事補 坂西文俊)

岱明寮だより

寮長挨拶



41 中尾 嘉克

皆さん、こんにちは。岱明寮の寮長になりました4年建築学科の中尾嘉克です。最近、寮ではインフルエンザが流行っており、油断できない毎日が続いております。外出先から帰ってきたときは必ず手洗いうがいをしましょう。

1年生の挨拶は4月に比べて成長し、今では見違えるほど立派になりました。指導においては、保護者の方々から厳しいとの声もいただきましたが、社会に出て必要になることだと思います。理不尽な指導にならないように最大限の注意を払いますので、ご理解のほど、よろしくお願いいたします。来年度は、様々な点でより良い寮を作るために、改善すべき点は改善し、寮生会役員全員が一丸となって、がんばっていきます。

シンガポールポリテクニック学生の訪問

12月7日(日)から14日(日)まで、シンガポールポリテクニックとの交流の一環として、12名の学生(男子5名と女子7名)が来校しましたが、その間は岱明寮に宿泊してもらいました。

異なる環境や食生活に慣れてもらい、また寮のルールも尊重してもらう目的で、「バディ」システム(buddy system)が採用されました。これは2名1組の「相棒」制度で、シンガポールからの男子学生には銀杏棟の4年男子寮生が、女子学生には桜棟の5年女子寮生が1名ずつ「相棒」になり、寮生活全般でお世話をしてもらいました。

最初はコミュニケーションの面などで不安を感じた「相棒」

寮生も多かったのですが、最初の対面ですぐに打ち解けた様子でした。休日には、みんなで阿蘇に行き一緒に温泉に入るなど有意義な経験をしたようです。



寮にて記念写真

(寮務主事補：村田和穂)

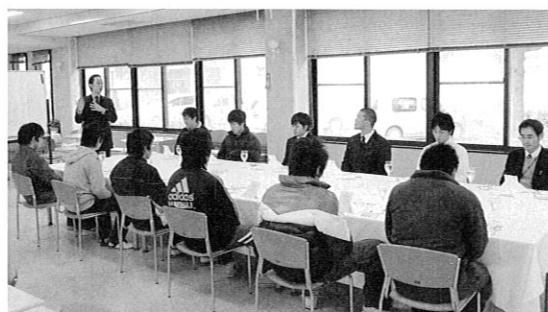
15

テーブルマナー講習会

12月13日(土)に、本校修己館にて、5年生寮生を対象として、テーブルマナー講習会を開催しました。同日に他の行事もあったため、本年度は10名程度の少人数での講習会となりました。

講習においては、西洋フードコンパスグループ(株)のホテル部門の方々を講師にお招きし、実際にコース料理を食べながら、西洋料理やワインについての知識や食事のマナーを学びました。(ちなみに本科生の飲酒は卒業まで禁じられていますので、「ワインの味」については今回の学習の対象にはなっておりません)

講習会の参加者たちは、社会に巣立ってからも、大切な方々のおもてなしにスマートな対応をしてくれることでしょう。



講習会の様子

(寮務主事補：柳原 聖)

寮生会役員

平成21年1月28日現在

寮長 4A 中尾 嘉克

副寮長 4A 小吹 義弘

副寮長 3A 河田 昂希

副寮長 4I 小堀 文

局名	局長	副局長	棟長	銀杏棟長	4A	山口 洋基
会計	4M 和田 亨	2A 原 主成	紅葉棟長	3A 河田 昂希		
整備	4C 大園 啓太	2M 福岡 翔太	青葉棟長 (2年生)	2M 鈴木 拓磨		
報道	4C 松原 康城	4I 福島 大貴	若葉棟長 (1年生)	4A 小吹 義弘		
娯楽	2M 山口 信人		桜棟長	4I 小堀 文		
娯楽委員	2A 菊川嵯千枝	2C 甲斐田有花	桜副棟長	4E 甲木友香里		
指導寮生	4A 小吹 義弘	4A 中尾 嘉克	4A 山口 洋基	4M 和田 亨		
桜棟指導寮生	4A 田中 美南					

*棟長・指導寮生は21年3月まで

ト ピ ッ ク ス

専攻科ポスターセッション

専攻科の特別研究を広く学内外に公表し、その内容と成果を問い合わせ、一方で専攻科のPRを兼ね、1月15日(木)・16日(金)に、本校総合研究棟総合研究室で第7期生36名のポスターセッションを開催しました。2日間とも研究内容紹介のポスターを常時展示し、昼休みと放課後には、担当者が学外からの来校者、本校教職員や在校生に説明しました。

特に今回は学内からの参加を呼びかけたため、来場者数が多く、盛況でした。専攻科生も、5年次の卒業研究発表会や学会等の発表経験から、熱心に説明し、教職員からは「質問に対して適切な回答が返ってくる」という評価をいただきました。専攻科生は終了時に疲れ切った顔はしていましたが、全員満足した表情を浮かべていたのが印象的でした。研究内容も含め、大学院や企業から専攻科生に対する評価が高まっているのも頷けます。さらなる専攻科の充実・発展を期待します。

(専攻科長 北岡敏郎)



第40回定期演奏会を終えて

吹奏楽部部長 4C 嶋川真理子



編集後記

正月を挟んだ冬休みが終り、新しい抱負をいだき、また、成人式を迎えた人は新成人の自覚を持って、進級や卒業に向かい始動していることでしょう。

この1年間、学内外のさまざまなイベントを通して、何か得ることができたでしょうか。日々の授業や課外活動は、目標を持たなければ、成果として現れません。学習や練習の課題が見えてくれれば、解決のための次の行動に移れます。自分のやるべきことを発見し、行動できる自律的な技術者を目指してください。

有明高専だより 第127号

平成21年2月23日

編集・有明高専広報室

発行・有明工業高等専門学校

〒836-8585 大牟田市東萩尾町150

TEL 0944-53-8861(学生課)

<http://www.ariake-nct.ac.jp/>

